第三篇　滿洲に対する戰略戰術的兵要地理觀察

第一章　總　說

第一節　史的觀察

一、興亡概觀

滿洲の原住民には三千年の歴史があり就中顯著なる建國をなしたものには遼金（元）清等がある　今之を兵要地理の參考として興亡の跡を辿れば次の如くである

1. 肅愼、扶余、肅愼は三千年前中國周秦の時代、史上最初に現れた原住民である　穢、貊族と共に北滿に居住し（肅愼は北滿東部、穢貊は北滿平野）獨特の文化を持ち約十世紀を閲した　貊族は後その中心地の名稱を冠して扶余族と稱した

2. 高勾麗　高勾麗族は鴨綠江上流扶余族より出でその文化を繼承し通化省を本據として南滿及北鮮を領域とし前三七年より前六六八年即二十八代七百五十年に亘り存在した　奉天及遼陽は當時既に

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

遼東の中心地となつていた

3. 勃海　勃海は靺鞨族靺鞨に出で高句麗沒落の後を受け七一三年より九二六年迄約二百五十年間滿洲の東半部及北鮮、沿海洲をその領域とし始め敦化地区に後、東京城（寧安西南方）に都した

日本とも修交し朝貢二十三回に及んだ当時遼陽には唐朝の遼東統治の都護府が置かれたことがある

4. 遼（契丹）遼は蒙古、契丹族にして西遼河流域より興り全滿、内蒙、華北の一部、北鮮及沿海州を領域とし林東附近に都し勃海の故都に設けた東丹国を遼陽に移し九〇七年より一一一三年まで約二百年に亘りその繁栄を致した

5. 金　金は靺鞨より出でた女眞族で阿城（哈爾賓東南）附近より起り近傍の女眞を糾合したる後先づ南滿を経略し次いで遼を亡ぼし逐次全滿、内蒙、華北、沿海州及黑龍江北方を領域とし阿城に都して十代百二十年間に亘り盛大を極めた（一二三四年亡ぶ）而し

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

て遼東統治のためには特に開原及遼陽に都統を配置した

6. 元時代　元は蒙古族で金及南宋を亡ぼし歐亜に跨る廣大の地域を席捲し十一代九十八年の覇を唱へた（一三六八年亡ぶ）此の間滿洲を遼東行中書省と稱し瀋陽に總管府を置き七路二府十県百二十站に区劃して統治した

7. 明時代　中國本土に於て明の勃興して元を亡ぼすに及び滿洲を併有し九万八千の兵を遼東の地に屯田せしめ遼陽に遼東都司を置いたが女眞族及蒙古族のため常に脅かされ統治は十分浸透しなかつた

8. 清　清は女眞に出づる滿洲族で興京附近より起り一六一六年滿洲の地域を統一し都を奉天に遷して国号を大清と稱し逐次内蒙、中国本土、黑龍州、外蒙、西藏、新疆等をその領域とした　第三代世祖の時北京に遷都し滿洲を禁封の地として漢人の移民を禁止したが一方滿人の農を捨てゝ中國に移住する者続出し滿洲衰微の原

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

因をなした　後に至り北方よりする帝政ロシヤの脅威に堪えず
一八七八年滿洲各地を開放して中国本土よりの移住を奬励して之
に対抗した　清朝の治世は三百年で一九一二年に亡びた

9. 民国時代　辛亥革命起り清朝に代つて中華民国が現出した国より
滿洲には張政權が抬頭し事実上滿洲の主權を掌握していた　一九
二二年及一九二四年には二次に亘り奉直戦あり張政權の勢力は一
時関内に進出したが一九二八年蔣政權の北伐に遭ひ滿洲に後退す
ることゝなつた

10. 滿洲国　一九三一年滿洲事變起り作戦は遼東地区を根據として遂
次北滿平野及遼西地区、東部地域及三江地区、コロンバイル地区
熱河地域に発展した　一九三二年滿洲国成立し爾来日本援助の下
に近代国家として急速なる発達を遂げたが一九四五年八月ソ聯の
侵攻に遭ひ忽然として滅亡した

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

十七世紀の初帝政ロシヤは東部シベリヤの経略を始めて以来約三世紀半に亘り絶えず其の勢力を極東に推進し続けて来た　此の間その進行が中絶されたのは日露戦争以後日本が満洲に勢力を維持し得た約四十年間に過ぎない

帝政ロシヤは一八五八年アムール地方を、一八六〇年ウスリー地方を経略して漸く満洲に迫り一八九五年仏、独と共に日本に対し日清戦争の結果獲得せる遼東半島の還附を強要し翌年露支防守秘密条約を結び且廣汎なる行政権を伴ふ東支鉄道の敷設権を得又一八九八年には旅順大連を含む遼東半島南部を租借し東支鉄道を之に延伸する権利を獲得した

一九〇〇年中国に団匪事件起るやロシヤは満洲の要地を占領し更に朝鮮をも窺ふの勢を示した

一九〇四年二月日露戦争起り其の結果日本は南満に於けるロシヤ権益の譲渡を受けロシヤは北満に後退することゝなつた　之れより南

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

満は日本の努力に依り急速に開発せられた

一九一七年ロシヤ革命以後張政權は北満のソ聯權益を回收せんと試みソ聯の權益維持の努力と衝突して屢〻満ソ間の紛争を醸した

一九三二年満洲國成立し東支鉄道は一九三五年満洲國に有償譲渡せられソ聯勢力は完全に満洲より撤退した　日本は国家の存立上満洲國と一体不可分の関係にあり乃ちソ聯の脅威に備へつゝ国力を傾けて満洲國の開発と繁栄とを援助した

然るに一九四五年満洲は突如として一九〇〇年当時の情態に還元し歴史は半世紀前へ急転回をなした

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二節　潜在戦力

滿洲は前後四十年に亘る日本の苦心經營に依つて空前の發展を遂げ殊に滿洲國成立後に於てはその実績顕著なるものがあつた

一、滿洲の人口は一九〇八年一七、一五六千人であつたものが一九三〇年には二九、一九八千人となり更に一九四三年には四五、三二三千人に増加している　その地方別分布状況の大要は左の通りである

省別	人口数（単位千人）分析（別年度）
長春	七四〇
吉林	五七六三
龍江	二〇六〇
北安	二三一一
黑河	一九八
三江	一、二二一

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

東安	二一八一	
牡丹江		
間島		
濱江	四五三七	
通化	一〇六二	
安東	二四一二	
奉天	一一六〇六	
錦州	四六三六	
熱河	四二三〇	
興安	二三七一	
計	四五三二三	

東安	五二三			
牡丹江	六八九			
間島	八四九			
西	七六四			
南	一〇二六			
東	二〇一			
北	一三二			

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三、滿洲の勞働力は約九〇〇万と概算せられ内七〇〇万は農業勞働力であつて農繁期隨所に需要を追つて移動する　雇農は三〇〇万に達すると謂はれる　殘余の二〇〇万は鑛工業、交通業をはじめ季節的な林業、土建業並びに手工業的な土着勞働力である　而して滿洲勞働力の特質は華北人の移入に依存することの多きと一般に定着性に乏しきことである　華北勞働力の入滿、離滿の状況を示せば次の如くである

（単位千人）

年次	入滿	離滿
一九三〇	六七三	四四〇
一九三一	四一七	四〇三
一九三二	三七三	四四九
一九三三	五六九	四四八
一九三四	六二七	四〇〇
一九三五	四四五	四二〇

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一九三六	三六〇	三八三
一九三七	三二四	二五九
一九三八	四九二	二五三
一九三九	九八六	三九一
一九四〇	一、三一九	八四七

入滿は三、四、五月が最盛期で年間の約半数を占め又離滿は一一、一二、一月が最盛で年間の約三分一を占めている

三、滿洲の産業、經濟力は一九三七年に発足せる産業開発五ヶ年計畫の推進に依り特に劃期的発達を遂げた一九四四年に於ける生産能力及生産並に輸出額は次表の如くである

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

滿洲主要生產能力、實績及輸出額（1944年）

品目		生產能力	生產實績	輸出
1.鉄鋼				
鉄鑛石		8.645.000屯	3.784.987屯	
銑鉄		2.524.000〃	1.710.000〃	714.000屯
鋼塊		1.330.000〃	439.000〃	
鋼材		827.600〃	485.000〃	95.000屯
特殊鋼	製鋼	71.920〃	12700〃	2603〃
	鍛造壓延	32.460〃		
2.石炭		34000000〃	25.626.704〃	2.294.000〃
3.電力		1.670.000KW	4.474.987.421KWH但1943年實績	
水力		616.000〃	1.833.637.247〃	
火力		1.054.000〃	2.641.348174〃	
4.輕金屬				
アルミニューム		10.000屯	8441屯	5.067屯
	建設中	45.000屯		
マグネシューム		800〃	402Kg	
	建設中	1.800〃		
5.非鉄金屬				
銅	電氣銅	3.500屯	2095屯	
鉛	電氣鉛	7.000〃	6.375〃	2166屯
亞鉛	電氣亞鉛	300〃	50〃	5〃
	建設中	4.500〃		
水鉛		1.200〃	784〃	700〃
6.非金屬				
マグネサイト		935.000屯	713.800屯	12039屯
螢石		268.000〃	96.900〃	52400〃
7.機械工業	機関車	110輛		
鉄道及產業車輛	小型機関車	130〃	131輛	
	貨車	4.300〃	3.200〃	
工作機械並工具軸受	工作機械	2800萬圓		
	工具	890〃	1.200萬圓	
	軸受	1.500〃		
電氣機械	電線	4.300屯	1.500屯	
	通信機	1.750萬圓		
	其他	5.000〃	2.500萬圓	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

産業機械		20.000萬圓	12.413	
自動車	車台組立及製造	2.000台	1.500台	
	部品製造	1.500萬圓	400萬圓	
	再生修理	17.000台	15.000台	
航空機	高等練習機(月)	100台		
	戦闘機(月)	10台	(年機体) 784台	
	半木製練習機(月)	10台	〃	
	発動機(月)	200台	(年発動機) 420台	
兵器	銃剣	120.000		
	軽機関銃	1.000		
	重機関銃	500		
	迫撃砲	500		
	小銃	30.000		
	小銃実包	750萬発		
	重擲弾筒	400門		
	各種弾丸			
	砲隊望遠鏡	400		
	灰眼鏡	10.000		
	防毒面	50.000		
8.化学工業				
曹達灰		60.000屯	49.011屯	6.382屯
苛性曹達		14.500〃	5.516〃	
硫安		240.000〃	42.901〃	10.876〃
燐安		12.000〃	10.657〃	551〃
カーバイト		14.000〃	10.153〃	
タール		170.000〃	31.520〃	4.587〃
ベンゾール		32.200〃	9.324〃	508〃
9.人造石油	粗油	280.000屯	230.000屯	全量日本へ
10.洋灰		1.820.000〃	1.132.550〃	21.992屯
11.パルプ		126.000〃	43.740〃	9.380〃
12.紙		176.290〃	45.860〃	1.000〃
13.[illegible]工業				

0325

0028

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

綿紡績(大事業体)		
綿糸	371.800梱	132856梱
綿布	4.289.740反	2940143反
カタン糸	430.000クロス	
特殊布地	115.000反	
其他糸	121.000Kg	
メリヤス製品	120.000打	
(中小事業体)		
綿布	7.691.000反	3.983.365反
タヲル	1.243.000打	1.090.803打
絹織物	626.028反	
ゲートル	20.000打	
綿靴下	21.935.900〃	1.472.526打
絹靴下	5.721.000〃	
軍足軍手	3.376.000〃	1.520.625打
毛紡績		
ラシヤ	807.000米	
サージ	1.040.000〃	
布地	56.000〃	
毛布	240.000〃	
和紡毛布	97.000〃	
メリヤス製品	78.000組	
毛糸	144.000lbs	
亞麻		
綿状麻	2.244屯	
亞麻縫糸	330〃	
麻網索	2436〃	
布地	360.000m2	
亞麻精線	2.949屯	
亞麻粗線	5.184〃	
織布原糸	182〃	
柞蠶		
柞蠶挽手	780屯	
絹維	15.932.000米	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

人造毛皮	82.500m2	
柞蚕糸織物	522.000米	
サージ服地	33.000反	
メリヤス肌衣	24.000打	
混紡糸	21屯	
紡麻		
麻袋	4.934.180枚	
麻糸	9.972梱	
麻袋換算数	5.961.000枚	
人造繊維	1.060屯	
14.食品及嗜好品		
豆油	9.800屯	58.000屯
豆粕		519.000屯 271.000屯
製粉	38.000バル	15.503.700袋
煙草	240億本	230億本
甜菜糖	40萬担	17萬担
15.酒精	75.000瓩	27.000瓩
16.製鹽		884.000屯 150.000屯
17.一般農産物(蒐荷量)		
大豆		2701.000屯 1.951.000屯
雜穀		5.657.000〃 2.437.000屯
粉		515.000〃 207.000〃
特殊油料子実		20.000〃 15.000〃
計		8.893.000〃 4.610.000〃
18.特用農産物(蒐荷量)		
棉花		81.000屯
棉線		18.000〃 14.000屯
洋麻		22.000〃
亜麻(原莖)		80.000〃 60.000〃
柞蠶		21.000億粒
19.林産物		
一般用材		3.258.000立米 2.065.000立米
特殊用材		1.215.000〃
木炭		26.284屯
薪		613.000立米

1—K

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四、当時鉄道は線路延長一万二千粁、機關車約二、三五〇輛、客車約二六〇〇輛、貨車約四〇〇〇〇輛であつて、電信施設は線路延長四六、九二六粁、有線機械裝置一、五一八座、無線送受信機四六二台又電話施設は線路延長一七六、九九八粁、交換機九一三台であつた

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第三節　滿洲の基本的地位

滿洲は歴史的に之を大觀すれば此の約百年間中國、ロシヤ（ソ聯）及日本三勢力の中間に位置して勢力拮抗の焦點を形成して來た　而して滿洲自体は清人の關内進出と漢人の關外流入との交互作用に依り清朝衰微以來その主体性を喪失しロシヤが先づ之を侵すことに依り此の半世紀の間日露間の對立抗争を醸すことゝなつた而してその内日露戦争より大東亞戦争に至る約四十年間は日本の國力を傾けての努力に依り滿洲がロシヤ（ソ聯）の手中に陷るのを防止した　之は日本自らの存立上絶對的な必要でもあつたが又同時に中國のために滿洲を保持したばかりでなく之に依り北方の脅威に對し中國の安全を保持し得たことは極東安定のためその要域である滿洲を保持したことでもあつた　滿洲は斯くの如き大勢上の要樞を具ふる要域である　この意義は一九四五年以後の情勢が嚴粛に之を證明している

加ふるに前後四十年に亘る滿洲に於ける日本の建設的努力は彼地の重

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

要度を一層重大なものとした即之に依り豊富なる資源及生産力は急速に開発せられ近代重輕工業は創設せられ極東大陸稀有の国富、潜在戦力を此處に建設したことである

東部シベリヤは自給自足不十分であり歐露に国力の主体を有するソ聯が極東に兵を用ふるの戦力には自ら限度がある　滿洲の建設充実に依つて彼我現地国力の水準差を極大に導き戦はずしてソ聯の侵略企図を断念せしめんとしたのが日本の滿洲経営に於ける戦略的意図であつた然るに今やその建設成果をも含めて滿洲はソ聯の勢力下に陥つた　此の充実し且擴大せられたる戦略基盤に立つソ聯の極東戦力は最早寒冷不便なる東部シベリヤのみを戦略基盤とした昔日とは比すべくもない我々は之を直視すべきである況んや中国自体とも與国提携の関係に變化せるに於てをやである

次の世界戦争に於て歐洲方面と極東とは内外作戦の一環に於て表裏相関の関係に立つ　此の際ソ聯は滿洲を主たる戦略基盤として極東戦略

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

を遂行すると共に中国全体を與国として活動せしめ更にその国力を世界戰略のためにも又欧洲戰略のためにも活用するであらうこの傾向は全軍局が持久化するに從ひ一層顯著となるうこれが為ソ聯人口の二倍を養つている中国の廣表と国力とを輕視してはならぬ　而してその中ソ協同のための路線としては内外蒙経由及新疆省経由も擧げられるがその素質から觀て兩国間に於ける大部分の交通、連絡を負担すべきものは依然此の滿洲経由の路線であつて滿洲は世界戰略に於けるソ協同連絡の要衝を成すものと觀るべきである

而して更に近時航空の発達は滿洲の戰略的地位を直接的に一層向上した即ち滿洲は大空軍の運用を可能とし一度之を基盤とする場合極東の要域は盡くその制壓下に入ることゝなるのである

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp